



復刊第91号
題字吉岡弥生

会長に就任して



会長 三神 美和

いつの間にか梅雨も過ぎ、暑い夏がやって来ました。会員の皆様にはますますご健勝にご活躍のこととお慶び申し上げます。

五月三十日の総会から早や二ヵ月となり、総会前後の慌ただしさから漸く落ついた今日この頃、あらためて自分の立場の重大さを噛みしめております。

もう役員には立候補しまいと心に決めておりましたが、諸般の事情から遂に立候補に踏み切ったのですが、計らずも皆様のご推挙によって、再

度、会長の重責を荷うことになりました。会の若返りのために、若い方の立候補を推進した手前、会長もまた若返るべきであると考えておりましたが、古い私がまた選出されたことは、本当に相すまないことと思ひます。然し皆様の温情に感謝して、選ばれた以上、最後のご奉公のつもりで、一生懸命のために尽力したいと考えております。何卒皆様、この古ぼけた会長をもう一度、叱咤激励されて、会のためにご協力下さいませようお願い申し上げます。今回の改選によって、お若い方が役員として多数入られたことは、本会の発展のために誠に喜ばしいことでもあります。前回には、役員立候補者も定員に充たない状況で、会の前途を案じておりましたが、この三年の間に会は平和をとり戻し、選挙

法その他の施行細則の改定、研究助成制度の確立、事務所移転の完成などを実施し、会としての基盤が強固になったと思ひます。これらのことが反映して、会員の会に対する関心が高まり、多数の立候補者があらわれたと思ひます。特に若い層から多数出られたことは、誠によろこばしく、慶賀すべきことと存じます。今後これらの若い力、また熟練された方々の能力を結集して、今後三年間、会の発展に努力したいと思ひます。私が今後やりたいと思つておりますことは第一にもっと会員を増やしたいことです。社団法人は会員によって成り立ち、その会費によって運営されるものであります。会が活動するためには、会員数が多くなければなりません。定款の細則改正により、年会費三年未納者は自然退会の制度となりましたので、このころ自然退会者が多く、心配しております。三年という月日はすぐ経つてしまいきますので、会費納入も忘れ勝ちとなりませんが、出来るだけ三年間の未納者をなくするようにすることが肝要と思ひます。それにはぜひとも会員のご協力が必要と存じますのでよろしくお願い申し上げます。またうっかりして三年未納のため自然退会となられた方も、もう一度再入会していただきたいと存じます。また新しい会員、例えば今年国家試験にパスして、一人前の女医になられた方々の入会を推進したいと思ひます。この点よろしくお願い申し上げます。

目次

会長に就任して	三神 美和	1
副会長就任のご挨拶	小俣喜久子	2
副会長に就任して	福永ひろ子	2
副会長に就任して	山崎 倫子	3
各部の抱負		
庶務部	久保田くら	3
会計部	佐藤千代子	3
事業部	白橋 美笑	3
学術部	森川みどり	4
渉外部	柳瀬 路子	4
広報部	平瀬 文子	4
監事就任ご挨拶	添田 百枝	4
	山口 三重	4
新役員のご挨拶		5
総会特集		
総会の挨拶	三神 美和	8
総会に出席して	小林 梅子	9
懇親会に出席して	星加 光江	9
総会議事録		10
評議員会議事録		11
前会長龍知恵子先生を偲ぶ	白井 潔子	12
恩師龍先生を偲んで	尾中 妙子	12
大先輩龍先生の思い出	町田 俊子	13
龍知恵子先生を偲ぶ	山崎 倫子	14
Circular Letter No.66 No.67	山崎 倫子	15
MWIA NEWS No.3	山崎 倫子	15
国連NGO国内婦人委員会連絡会報告	柳瀬 路子	17
理事会議事録(三月・四月・六月)		17
会員動静		20
編集後記		20

ます。

第二に会誌の内容を充実したいと思ひます。より格調の高いものにし
たいと思ひます。研究助成をうけた
方々の論文(抄録)の掲載、渉外関
係の記事、国内婦人団体の動きなど
ぜひお願いしたいと思ひます。

第三に東京都の各支部の連合会を
つくりたいと思ひます。このことは
各区単位ですと会員の少ない区もあ
り纏まった活動も出来ませんので、
東京都支部連合会というものを結成
して、東京都が一丸となって活動出
来る態勢を整えたいと思ひます。

公益法人としての日本女医学会が、
社会的活動をするためには、多数の
力を結集しなければなりません。東
京都の会員のご協力を切にお願いし
ます。

今後の三年間での位仕事が出来
るか分りませんが、役員の方々、会
員の皆様のご協力によって、会の発
展のために努力したいと存じますの
で、何卒よろしくお願い申し上げま
す。

まだ書き足りない恨みがあります
が限られた紙数のために筆を擱しま
すが、重ねてご協力をお願い申し上
げます。



副会長就任のご挨拶

副会長 小俣喜久子



梅雨未だ明けやらぬ鬱陶しい日々
でございますが会員の先生方には益
々ご健勝で活躍のこととお慶び申
し上げます。

さる五月三十日京王プラザホテル
において第二十七回総会並びに役員
改選が行われましたが今回の選挙で
変ったことは前年の総会で細則改正
案が可決されましたそれに従って各
自の同窓会に関係なく日本女医学会
員として自薦立候補したことであり
ます。そして三十五名の理事のうち
新人の名が多く見られましたことは
日本女医学会も徐々に時代の流れに沿
って変遷して行くさまが窺われます。
私はこの度改めて副会長に就任いた
しましたがご支持下さいました各理
事そして会員の方々におこたえする
べく努力して参りたいと存じます。
なお引き続き留任された三神会長の

相も変らぬお若さとお元氣一ぱいで
何時も日本女医学会の前進を心がけて
いらつしやるその会長を補佐するこ
とはいささか力不足と存じますが一
生懸命勤めたいと存じます。また会
のためにも理事の先生共々各部の運
営に協力し働かせていただく所存で
ございます。そして会員相互の和・

副会長に就任して

副会長 福永ひろ子



親睦を基盤にして全国各支部の連帯
感をもつことが大切であると思いま
す。その手はじめに会長自から先ず
東京都内の各支部を一つの連合会に
結束しては如何かと提案していらつ
しやいます。これが早く実現されま
すと次々と地方支部の連絡網が広が
り各会員の実りあるご意見など身近
に聴くことが出来ると思ひます。そ
してこの親近感が日本女医学会をはぐ
くみ価値あるものにいいよ盛揚げ
て行くことと確信いたします。

何とぞ日本女医学会のため会員諸先
生のご協力・ご支援賜りますよう今
後ともよろしくお願い申し上げます。
ご挨拶にかえさせていただきます。

林雨に煙る箱根路に、紫陽花の青
山法師の白が目に沁む季節となりま
した。

五月三十日に開催された社団法人
日本女医学会第二十七回総会において
の、役員改選にあたり、再度、副会
長に選出されましたことは偏に諸
先生方のご支援の賜と心から感謝い
たしますとともに、その責務の重大
さに、身のひきしまる思いがいたし
ます。

終りになりましたが皆様の益々
ご健勝をお祈りしますとともに
一層のご鞭撻の程をお願い申し上
げます。

昨年、日本女医学会創立六十五
年の記念式典を行い、また長い間

副会長に就任して



副会長 山崎 倫子

いつになく不順な天候が続いていますが皆様にはご健勝にご活躍のこととお慶び申し上げます。

この度重ねて副会長に再選されました。心新たな気持ちで任期一ぱいその責任を果したいと願っています。よろしくご指導、ご鞭撻下さい。今回の役員改選で新しい理事が十

三名も生れたことは本当に嬉しいことでした。新風が吹きこまれることを心から期待しています。

理事會に殆んど出席しない、あるいはただ席を温めているだけの理事では意味がないのです。こうあつて欲しいという女医学会のビジョンに向つて、会員の意志と希望を代辯する理事になりたい、またなつてほしいと思います。

卒直かつ活発な意見交換と協議によつて、明日の女医学会に向つて皆さんとともに努力してゆきたいと考えています。

七月二十三日の長崎地方集中豪雨及び台風による被災地区の皆様にご心からお見舞申し上げます。

各部の抱負

大事を大事とする

庶務部

久保田くら

締切日を明日にひかえ、大急ぎで野沢常任理事に了解を得て久保田が本紙にかかせていただくこととした。庶務はまた久保田である。変りばえないこと夥しい。松岡さんという大物で人間性豊かなベテラン庶務が去つたことは大打撃である。また、きつぱりやの尾中先生もいなくて淋しい限り。

ただし、古顔の他に大勢の新人が参加し、今日までと異なる新風を吹きこんでくれることを大いに期待する。

今後、新旧心を合せ、各人の得手とするところを充分生かし、互いに責任を持ちつつ、庶務としての役務を果たしたいと希うものである。ところで庶務は各部に関係があり、考えようでは、あるいは在りようでは「何でもや」になるところがないでもない。新しい出発に当り、置かれた立場を考慮し、日本女医学会の大事を大事として行動できる会員でありたく、その上で良き庶務としての役務を果たしたいものと考えている。私、年

引続き会計担当と

なつて

会計部

佐藤千代子

齢のみ重ねているにすぎぬ小人であるので、毎度の行動などにつきご遠慮無用にされてのご叱正を心から希う次第である。

(昭和五十七年七月十九日記)

今年三月、会計を担当しました過去三年間の反省のご挨拶とともに、各支部別に会費の納入率を棒グラフにまとめました図を会誌90号に掲載していただきました。今、再度会計担当となりましてその抱負と責任は？と新たな感慨でグラフを眺めております。

会員の貴重な会費で運営する責任として、有効適切な歳出を基軸とし、経常費の節約、会費徴収のための努力、加えて事務的整理と正確な記帳、これらの努力は先輩の時代より連綿として続いており、今後も当然踏襲しなければならぬ基本であります。五月総会におきまして一会員より学術講演に関し講師への謝礼についてご指摘をいただきました。たまたま昨年は会員で教授の藤井先生に特別講演をお願いしたため、先生のご厚意により学術講演費用無支出の決算報告となりましたが、「女医

会として恥ずかしくない対応をすべきである」とのご意見をいただき同感かつ心強く感じました次第であります。

貨幣価値変動等に伴う会費値上げには出来る限りの抑制をすることは当然です。しかし現時勢において女医として当然しなければならぬ社会活動も責務であります。研究助成の拡大とともに、地域においての活動が活発になり、本部助成が増嵩して会費値上げに反映しても、それはご容認いただけると思ひますし、また、望ましい姿ではないでしょうか。

新年度に当り、会計担当の既経歴を持たれます先輩丸山先生・蓮井先生を始めとし、新進気鋭の石川・鶴川先生をお迎えして、新しい視野に立つての会計業務がなされますことと喜んでおります。

事業部

白橋 美笑

事業部の役務をお引受けいたすことになりました。何ごとも新人のつもりでがんばりたいと思ひます。

経験豊かな大先輩もご活躍だしまつた若々しい新人もたくさんお入りになつて心強い限りです。

皆様とともに三年間日本女医学会のために役立ちたいと願つております。何時も日本女医学会の一会員であることを忘れずに。

学術部

森川みどり

今期学術部担当

野呂幸枝 橋本葉子 藤井儔子
藤田親代 森川みどり(五十音順)

従来の学術部活動のルールを踏襲し、先輩のご指導をいただきながら、講演研究会中特別講演について、演者と演題を検討する。

今期学術部事業計画

一、講演研修会

年一回吉岡弥生賞授賞者による研究発表と興味ある今後の医師教育に反映するテーマを広範囲中から人選し、講演会を行う。

二、研究助成

全国の大学医学部、医科大学及び会員に公募し、医学分野の発展と向上を図るとともに、女医の地位向上の一貫として、優れた若い女性研究者に対し助成をする。

案内には一、助成の趣旨 二、助成金額 三、申込手続(イ応募資格、ロ助成期間、ハ応募方法) 四、申込期間(十二月二十五日必着) 五、選考方法及び発表方法 六、助成金の贈呈 七、受賞者の本会に対する義務 八、送り先 以上を通知する。
三、吉岡弥生賞
日本女医学会で、医学に貢献した

会員、社会に貢献した会員に規定したがって授与する。

今回は、八月末発行予定の会誌で公募を行い、締切は十二月三十一日、以上三項を担当させていたいただいて、どれ程お役に立ち得ますか自信がございませぬが協力して努力いたしたいと覚悟しております。各位におかせられましても新しいご発想をお聞かせ下さいますようお願いいたします。

渉外部

柳瀬 路子

渉外部といえは内閣でいえは外務省という所で肝腎な所ではありますがお相手次第の仕事ですからぶつかってみなければ予測は出来ない仕事でもあります。

先ず今年にはマニラで国際女医会が開かれまして日本からも多数の会員が参加されますのでその事業を円滑に進めること、山崎連絡書記の手足となつて皆様に満足願える状態を終了させたいと願っております。

我々のメンバーの一人である佐野常任理事は国際女医会の副会長でありかつ募金委員長でもありますので、その方のご協力も出来るだけ上げていただきたいとお願い申し上げます。次第でございます。

また別項にも書きましたが、国連NGO国内婦人委員会のメンバーとして「国連婦人の十年」後半期における婦人運動に協力してまいりますのも渉外部の一つの仕事でございます。

これに派生して「国際婦人年日本大会の決議を実現する連絡会」という四十八団体の婦人の会が生れましたが、日本女医学会も構成メンバーの一つであります。主には男女平等条約の批准の推進とか、臨時行政調査会へ要望書を提出して、婦人行政官、殊に政策決定のポストである管理職への婦人の任命を要望したりしております。これらの婦人団体への会合へも出来るだけ出席して協力態勢をとりたいと思っております。

その他外部団体からの呼びかけに對してはその都度理事会にはかり、対処したいと考えております。

広報部

平瀬 文子

昭和五十七年六月二十六日常任理事会で、広報部にきまり、今まで渉外部でのんびりやっていたので、大変なことだと思っております。

七月六日ホテルオークラの山里で第一回編集会議を開催しました。八

木貞子、川口正子、井上柳子、森智代、平瀬文子と五人ではなやかに発足しました。これからの編集についていろいろ話し合いましたが、年四回発行、とくに期日をおくれられないようにする。原稿も広く多数の会員の方々にも書いて戴くようにすること、原稿は各部日より、各支部日より、とくに研究助成を受けた人及び吉岡弥生賞受賞者の論文抄録、また社会福祉のためにつくされた方々のたより、国際女医会副会長、連絡書記の先生方の原稿も期待しています。なお本年はマニラで国際女医会が開催されますので多数の方のご参加を希望しています。帰国後は経過報告、旅行記、写真等もたくさんご投稿お待ちしております。

監事就任、ご挨拶

山口 三重
添田 百枝

三年間の任期があつという間に終了しまして、さる五月三十日の総会で、新監事西山喜代子様をおむかえして、山口三重様と私は再任されました。新監事のご挨拶は別項にありますが、私どもは再任のご挨拶を申し上げます。今年は三年がかりで改定された細則にもとづいてはじめて行われまして改選でありました。良識ある改選の結果、三分の一の新理事、

新監事が誕生いたしました。新理事会を発足することが出来ました。この健全なる歩みに対し同慶のいたりでございます。

昨年は念願の新事務所も、地のりのよい一等地に持つことが出来ましたし、一歩一歩日本女医学会も名実ともに、斯界にその地位を確立し、各セクション理事の活躍もめざましく、学術部門においては、三神会長発案の日本女医会会員に対する奨学金の設定などにより全国各大学、研究機関からの会員の応募など、この会に対する期待も大きさを増して来ています。

私も監事三名はその役を忠実に果たしたいと念願し努力いたします。理事各位にはもちろんのこと、全国会員のご支援よろしくお願いいたします。 一九八二年七月二十日

吉岡弥生賞候補者推せんについて

昭和58年吉岡弥生賞授賞の適格者を本会理事または支部長宛にご推せん下さるようお願いいたします。締め切り期日は本年末日迄に願います。

なお次の書類を添え、ご推せんをお願いいたします。

- 一、自筆履歴書(写真添付)
- 二、業績
- イ 医学に貢献した現会員
- ロ 社会に貢献した現会員
- 三、推せん理由

新役員のことば



石石み代

大正九年十一月二十八日生、昭和十九年九月三十日東京女子医学専門学校卒業、昭和三十七年三月開業、昭和五十七年五月三十日日本女医学会理事を仰せ付かりました。

さて、理事就任のご挨拶をとのこりと筆を握りましたが、何分にも私は反応が遅く、昔から螢光燈とか木炭車とかいわれて来た人間なので、現在はまだ、希望、抱負等を申し上げられる時期には到っておりません。世田谷区医師会の先生方に、日本男医学会というものは無い、しかるに日本女医学会というものがある、その存在意義は何なのか、と問われました。これに対してもご返事を保留いたしておられます。これも日本女医学会が何であるか充分熟知してからご返事することにいたしてあります。暫時、私に時間を貸して下さい。日本女医学会の全容を把握してから、希望も抱負も申し上げます。



荒木律子

私が日本女医学会会員になりましたのは、母校の医局におりました時です。何となく入会したままで、この度理事になります迄、意識の低い会員でございまして、総会には、東京・群馬と二回出席したのみ、国際女医学会にも、東京・ベルリンの二回しか参加しておりません。この度、庶務担当の理事になりましたので、その仕事の重要さに当惑いたしておりました。これから先輩の先生方のご指導を得て、全国の会員の皆様のためにまいりますように、日本女医学会をより身近な会にしてゆきたいと思っております。

女性が医師として働きながら家庭を造り、子供を育てるということは、現在の日本の社会では至難の道でございます。私の子供の頃の日本の社会よりも、高度成長後の現在の方が、女医が仕事と家庭を両立させるのが困難になったと思います。私事で恐縮ですが、私の母(福田幹子)は、明治四十四年に医術開業試験に合格し、同時に東京女医学校を卒業した訳ですが、大病院の小児科を見学し、間もなく本郷の病院に勤務しまして、弁護士であった私の父と結婚し、開業しながら、兄二人と私の三人の子供を育てつつ、至誠会の仕事、

日本女医学会の仕事と、意欲的に働いた医師でしたが、私が今考えてみますと、明治・大正・昭和初期の日本は、女医にとって男尊女卑の厳しい時代であったにもかかわらず、家中においては、書生・子守・女中・乳母等の家内労働の助け人が豊かであったと思います。私も幼い頃に、今日では理事会だから……という母の言葉を今でもよく覚えておりますが、不自由をしたことはありません。それが、自分の子供を育てる時には、母親として困ったことがたくさんございました。

国際女医学会の時に、ベルリンでの宴会の夜、西ドイツの女医の方が、自分が一番困っているのは、子供の世話と仕事のやりくりだ、と申されていました。その点、家内労働力の豊かな国の方々には、その苦勞は理解出来ない様子でした。

ともあれ、これからの課題として、日本の女性の立場の向上のために、少しでも役に立ちたいと思っております。

七月十七日



石川 文子

紫陽花の花の美しい季節となりました。全国の会員諸先生にはご機嫌よくご活躍の御事とお喜び申し上げます。さて、計らずも私、五月三十日の総会にて理事の末席を汚させて

いただくことになりました。光栄に存じます。また会計という重責を担当させていただくことになりました。責任の重大さを痛感いたしております。始めに所属する部が会計ということに戸惑いを感じております。私でございますが経験豊富な先輩の先生方が沢山おられますのでよろしくご指導をお願いいたします。存じます。同時に女医学会のために立つべく努力いたし度いと思っております。さて今まで末端会員として支部の仕事をしておりました関係上、二三感じましたことを綴らせていただきます。

第一に女医として今後如何あるべきか、我々年代の女医と若い世代の女医との考え方の相違等、疑問点も多々あると存じます。女医学会が一つの大きな力となつて協力し合つてこそこのような問題も解決するのでないかと存じます。第二に退会者が年々増えていることでございます。お引き止めをいたしまして決まらずに会員から戻って参ります。答えは、

「日本女医学会に入っても何のメリットもない」という答えなのでございます。私もこれから考えますれば各学校の卒業生の方々とお親しくしていただき、親睦を図るのも一つのメリットであり一年に一回の総会でお互いに「お久しぶりね」と肩を叩きあえるのも女医学会の総会ならではの風景ではないでしょうか。医師としての技術面ばかりでなく人間性の豊かさも必要なのではないかと存じます。そういう意味におきましても、クラ



石原幸子

ス会など集まりの場所女医学会の先生方が自信を持って声を大にして女医学会へ入会の必要性を説かれては如何かと存じます。また、皆様でメリットのある会として誇れるような別の方法を考えるのも一つの課題ではないかと存じます。皆様のご推薦により理事となりましたからには、女医学会発展のために専心努力いたし度くこれからの三年間、皆様とご一諸に手を繋いでまいる輪を描きながら円満に過ごさせていただき度いと念じております。

お暑い中皆様お元気にご活躍のこととお慶び申し上げます。私はこの度理事に就任させて頂き、事業部に所属することになりました。私と女医学会との出会いは、あの国際女医学会東京大会でありました。喧々囂々渦巻く中に入って、右も左も分らぬまま先生方の後を走り廻り、あの盛会だった会を終了した感激は、思い出す度に新しい感動となつて、私の体の中に甦つて参ります。このような素晴らしい集団はまたとないと思ひました。一人でも多くの方達とこの幸福を分かち合えたらと思ひ、常々女医学会入会を進めて参りましたが、一様にメリットがないという答えに、何とかしなければの思いにかられてお

りました。幸い私はこの機会に恵まれ、常日頃考えていた二つの問題を提起し、私の夢物語をお話ししたいと思ひます。

一つは女医の社会的地位のP・R、昨今のマスコミを賑わす働く婦人云を見聞する度に、私達女医こそ古来より、男女同権、対等に職業婦人として、堂々と生きて来た集団はないという思いがします。常に生命と対峙して緊張した生活の上に、一般社会に首を突込み、ストレスを増加する必要はないと思う方もおられるでしょうが、私はもっと社会性を持ち、豊かな経験と博識を以って、社会的なインシアチブを持つべきであると思うのです。もう一つは卒後教育の問題です。日経メディカル七月号によりますと開業医の実に八十%が卒後教育の機会が十分あればよいと期待しているようです。日進月歩の医学界において、また来るべき医師過剰時代に備えて、会員の大半が中年層以上であることを考えますと、私達はこの問題に、組織的に取り組む必要があるかと思ひます。この問題は、当然学術部の問題でありましたが、私は毎年の事業の一環としてぜひ事業部も協賛させて戴き、楽しい会を開きたいと念じております。あの国際女医会まではいかなくても、ウエルカム・フェアウェイ・パーティ位を添えて等と楽しい夢を描いております。また、事業部としては人間は下から弱り頭に来るといふ通り、ゴルフ、ダンス、麻雀が老化防止の

三大お遊びと聞きました。こんなグループも作ってみたいなと思つております。いずれにいたしましても私も中年は、先輩諸姉の築いたご立派な組織を後輩に正しく伝える義務があると思ひます。夢に終らぬよう、脱線しないように精一杯やりたいと思つておりますので、会員の皆様のご指導ご協力を切にお願い申し上げます。



井上 柳子

私は、東京女子医専を昭和十七年九月に卒業。現在は、松坂屋医務室長として、職場の健康管理の充実に活動、午前は全科の診療、午後は健康相談に充分時間をあて、社員の不安や悩みを、ともに考え、解決に努力しております。銀座と吾が家との往復三十五年間、「井の中の蛙」も、そろそろ外にとび出し、女医会のために何か役に立ちたい、社会勉強もしたい、自分自身も鍛えたいという一念で、スタートしました。初めての理事会に、青山宮野ビルの本部に立った時、ヒシヒシと、責任の重さを、両肩に感じました。各大学卒の先生方と、胸襟を開いて、意見の交流、信頼と協調、大きな「和」のためには、一步譲る心も忘れずに、若い会員にとつて、魅力ある女医会になるよう、努力したいと思ひました。

広報部の担当がきまり、かつて編集部で活躍した、青春時代を思い出しました。早速、校正にとりかかり、私の小さな机の上に、原稿用紙、赤鉛筆、老眼鏡、国語辞典、英和辞典等散乱しています。会誌は一年に四回発行し、会員の声の広場として、全国の支部と本部を結ぶパイプの役でもあり、女医会の顔として、重大な役割を担います。三神会長から、学術面に重点をおいた格調の高い会誌にして欲しいとの要望を伺い、期待にそぐべく、学術部と協力して、吉岡弥生賞、学術研究助成の授賞者、学位取得の先生方の研究論文の抄録をのせてゆきたい、さらに、心暖まる「忙中閑」の趣味、芸術作品のコナー、各支部女医会の社会活動、マニラで開催される国際会議の報告や、楽しい旅行記の原稿もお寄せいただきたいと思います。ベテランの八木常任理事の指導の下に、気心のわかった、他の三人の先生方と、チームワークもしつかりと、頑張りますので、ご協力下さいますよう、お願いいたします。一日の診療で、心も体も疲れた時、私は、好きな陶器を取り出して眺めます。ことに、生れ故郷の萩を想い出す心静かな色合いの萩焼や、強靱な炎と土味の備前焼が、心をなごませてくれます。来年の総会は、岡山で開催されますので、今から、備前焼の登り窯を見て、あのウワグスリの無い焼きしめの陶器の名陶を見せていただきたいと、楽しみにしております。



鶴川 美登里

私は、山本杉先生、村野喜代先生の大先輩を囲んで開かれる、都下支部会に出席するたびに、先輩諸氏の多岐にわたるご活躍ぶりを伺い、目をみはる思いをいたして参りました。このように、女医会の目的である「女医相互の啓蒙及び親睦を図る」の主旨を見事に実践していらっしゃる先生方と一緒に、女医会を大きく育てて行く仕事に参画してみたいと考え、僭越とは存じましたが、理事に立候補いたしました。

いざ理事として女医会の機構に入り、早速には、役務分担をきめることになりましたが、この大組織を勉強するためには、庶務部か、会計部で概要を理解して行くことがよろしいのではないかと考えました。それで、第一歩を、会計部におかせていただくことに決めました。幸いにも、この部には、ご経験豊かな常任理事の佐藤千代子先生、丸山実先生がおいでになりますので、親しくご指導をいただき、少しでもお手伝いできますように、努力いたして行きたいと存じます。何とぞよろしくお願ひ申し上げます。



関口 喜久

この度、理事として事業部を担当させていただきますことになりました。何分新参者ですので先輩理事の先生方のご指導をいただきながら出来る限りお役に立ちたいと存じます。医療のあり方についてとにかく問題の多い現在、女医に求められるもの、女医会として出来ることは何か等と事業部を通してなお一層魅力のある女医会に、会員を一人でも多く、会員の輪を拡げて多くの若い女医先生方の入会を心から希望いたします。

多くの人の力と和があつてこそ立派な仕事も出来、日本女医会の将来の発展にもつながるものと信じます。なお、会員の諸先生方からたくさんのご意見、ご希望などお寄せ下さいますようお願い申し上げます。浅識の身を恥じらいながらの監事就任とあれば、何と哀れにも惨めな



西山喜代子

巡り合せというほかはない。果してこのような重責を未熟な私が、果して終えることが出来るであろうかと、不安が先に立つ。私は多年に亘って諸先輩の、猷身的な姿を眺めて来た。熟々思うに、徒に役に恐れて、安易な殻に閉じ籠っていたのでは、発展は望むべくもない。諸先輩と雖も自らを、十全の者としてその役に就かれた方は、恐らくはないであろうと思われる。その方々は偏に会の発展を願って、奉仕と努力の累積に明け暮れた尊い姿の反映であった。

この無言の教えに私は勇を鼓して、大馬の労を尽したいと改めて覚悟を決めた。数ある理事の方々は、年齢的にもまたその歩まれた道にも夫々の違いはあろうし、そこから生れる考え方にも必ずと差異の生ずることは、当然であろう。私の申し上げたいことは、この差異こそ固定から柔軟への飛躍展開があり発展への原点が介在しているようで、大変良いことだと思ふ。ただ陥り易い危険性といえは、意見の固執であってこれは戒めねばならぬことだが、互いに譲りあって意見の調整を計ることが肝要と思ふ。そういった意味で年輩の方々は、若い方の意見にも耳を傾け長所を見出すことに努め、また若輩の方々は、多年に亘る人生経験から割り出された年輩の方の意見を尊重するという態度と度量が、欲しいものだと私考する。

今や日本も国内に止らず国際的にも、飛躍を旨すと要求される時、日本

女医の大集団としての日本女医学会は、学校別等の些細なことにこだわることなく、眼を広く心を大にして前進することが、会の発展のためにも最も重要なことであろうと考える。

拙筆にあたって、読み返してみると勢獅子のように如何にも気負って見えるけれど、どうしてどうして私のような微弱な者の力では、皆様のお力添えと協力なしでは、どうすることも出来ないことを痛感する。どうぞご指導やらご鞭撻をいただき、そのご温情に縋りつつ重責を全うしたいものだと思願して止まない。



橋本 葉子

この度の役員改選は無投票になり、はからずも私のような若輩が役員になってしまいました。また、役員間の投票の結果、多くの先輩を通り越して常任理事という大役を仰せつかり面くらっているところですが、役務は學術部を担当することになりました。

ここで私の略歴を述べさせていただきます。昭和三十一年東京女子医大を卒業し、一年のインターンの後直ぐ慶大医学部生理学教室へ助手として入室し、富田恒男教授（現在名誉教授）の下で電気生理学、主として網膜の生理学的研究を始めました。慶大で医学博士の学位を得ました後母校の生理学教室に移り現在助教

として、教育と研究に明け暮れております。研究は網膜回路網の解析を主題にしています。この間二回、米国に留学いたしました。

このように、私は医師免許証は持つておりますものの、一度も使用したことがございません。二十数年も臨床から離れておりますと、現在の医学からは完全に取り残されて専門馬鹿になってしまい、各科の現状の一端は、各学会誌、学会発表、医学関係の新聞等で窺い知るだけになっております。今回學術部を担当することになりましたので、出来るだけ広い視野の下に私の責務を果して行きたいと存じます。

學術部は①研究助成、②吉岡弥生賞授与者の選考、③學術講演が三本柱になっているとのことです。大先輩の森川先生のご指導を仰ぎながらこの三本柱をより太くより堅固にしたいと考えております。そして国内はもとより国外でも學術的活動を拡げて行きたいと存じます。何卒皆様も學術部に対するご希望やご意見を多数お寄せ下さいますようお願い申し上げます。

私は、この度日本女医学会の理事になりました。しかしどなたも私をご存知ないと存じますので、自己紹介をさせていただきます。生年月日は昭和



町田 俊子

五年十月二十六日、うま年でございます。千葉県市川市に居住しております。市川小学校を卒業、当時の府立第一高女を四年修了、東邦大学医学部予科に入学、昭和二十九年に医学部を旧制第一回生として卒業し、母校の産婦人科教室に入局（赤須文男教授門下）昭和四十年に市川市菅野に、まことにささやかに産婦人科・皮フ科を開業して本日に至っております。本年春、突然先輩の先生方のご命令？によって理事になったのでございます。実を申しますと、今迄会費こそお払いしておりましたが、この、女医会の行事に参加したこともなく、無関心に打過しておりました。お恥すかしいことですが、唯々ささやかな己れの小さな小さな世界に窮々と明け暮れる零細な小開業医としてしか生きていかなかったというのが実情でございます。「理事」だなんて、狼狽と困惑の極みでございました。総会に始めて出席いたしました。学問的にも医学の発展に貢献されている先生、また後進の医師の育成に益々ご研鑽を積まれつつある先生、また諸外国との学問的、社会的交流に力を尽されておられる先生方など……その中で、一体私に何が出来ると言うのでしょうか。不安と緊張を全身に感じております。この上は、先生方のご指導とご鞭撻を戴きつつ無力の私でございますが、努力をして行く所存でございます。どうぞ執行部の先生方、全国の先生方、よろしくお願いを申し上げます。

今回、はからずも伝統ある日本女医学会の理事に選出されましたが、その責任の重大さを今さらながら痛感しております。突然學術部の友人より電話がありましたのが桜も散りさわやかな新緑の季節でした。日本女医学会の理事になるように、とのこと。昭和四十八年より地区医師会ただ一人の女性の理事として検診部、公衆衛生部を担当その責任者として地域医療に全力投球、休日診療、予防接種、各種検診等と昼夜となく飛び廻っておりましたがさすがに疲れ一休みと思つていた時として、一応おことわりいたしました。先輩の諸先生、同窓生からの強い要請で少しでもお役にたてばと心をきめました。五月の総会にて三神先生を会長としての新しい執行部が発足。六月の理事会でそれぞれの担当が決定、私も最年少の新任理事として庶務に所属しましたが、すぐれた業績を残された先生方のおあとを継いで、会長、副会長先生、並に先輩の諸先生のご指導のもとにできるかぎり努力し、その責任を果してまいりたいと思っております。激動する世界、そして社会状況の流れの中で、医療行政も大きく変わってくることでしよう。その中で女医としての役割りもますます重要になってくることと思ひます。



三好 美春

総会特集

総会の挨拶

会長 三神 美和

日本女医学会も今後とも、一人でも多くの会員を結集し、その親睦と団結を基盤として、会員の総意をもとに、各種の事業、会議を通して、日本における女性のリーダーとしての会として、ますます成長、発展し、国際的にも飛躍していくよう、微力ながら努めてまいりたいと存じております。

会員の諸先生方の暖かいご協力とご指導を心からお願ひ申し上げます。



森 智代

記録的な長梅雨に暗れ間の恋しいこの頃、先生方にはご健勝にご活躍のこととお慶び申し上げます。

この度、はからずも理事のお仲間に参加させていただき、広報を担当することになりました。広報部は八木先生はじめ、経験豊かなすばらしい先輩の先生方です。年四回発行の会誌を通じて会員の和を深め、本部と支部の先生方のパイプ役になるよう務めたいと思っております。

日本女医学会の充実した事業活動で着実の実績を重ねられ、今日の発展をみるのは、一重に会長はじめ役職の先生方のご努力のたまものと敬意を表します。このような立派な会の理事として、浅学非才でございますが鋭意努力してまいりたいと存じますので、なにとぞご指導ご鞭撻をくださいますようお願いいたします。

月末でご多忙の中を、全国津々浦々から、多数の会員の皆様、本総会にご出席下さいまして誠に有難うございました。殊に本年は、役員改選でございますので、例年よりたくさんの方々がご出席されたものと存じます。日本女医学会に対するご熱意の賜と深く感謝申し上げます。

さて本日は役員改選のほかに総会として、五十六年度決算と事業報告、五十七年度事業計画並びに予算を審議していただくことが最も重要でございますので、何とぞその点よろしくお願ひ申し上げます。

五十六年度事業報告は、各都府県それぞれ報告がございますが、特に申し上げたいことを拾って申し述べ度いと存じます。

その第一は、国際女医学会記念事業として掲げた事務所移転の問題が解決(終了)したことであります。福永先生のご推挙があり、さらに事務所移転委員会の度重なる検討会、その上さらに理事会で検討を重ねた結果、現在の渋谷宮益坂宮野ビルに新しい事務所を持つことが出来まして、日本女医学会の財産となったのであります。これで記念事業の三本柱、

すなわち事務所移転、若い会員への研究助成、そして国際ファンドの拡充のこの三つがすべて果されたことになり、会員の皆様へのお約束を果たすことが出来まして、私ども当事者をホッとさせたのであります。

事務所を持ったことは、本学会の根拠地を持ったことになり、仕事をやるに当って、安定感を得たように思います。小さいながらも別に会議室もありまして、毎月行われる理事会には、膝つき合わせて会議をしておりますが、それが却ってお互いの親しみを増すように思います。会議室は、他の会合に、会員の皆様にご利用していただくよう考えておりますが、目下お貸しするための規定を検討しております。とにかく小さい事務所ではあります。当分はこの居を構えて、皆様とともに活躍出来ることは、永年の夢が叶ったようで、うれしうございます。「鬼の首でもとつたように喜んで」と言われた方があるとか耳にしましたが、日本女医学会史上、初めて持ったわが事務所であつてみれば、うれしいのは当然かと思ひます。皆様とともにここで頑張りたいと思ひます。

その二の研究助成の仕事は、全国の大学医学部、医科大学に大きい反響を与えたものと確信しております。その演題の応募状況、その出題のパラエティなどからみて、若い会員の研究心の旺盛さを知り、何れも立派なお仕事をしておられることを認識しました。今年も三十題近い応募があり、お金さえあればもっと多くの方にご援助申し上げたいと、しみじみ感じております。男女同権の時代だと言われているようですが、まだまだ女性の科学者に対する目はきびしく、文部省、厚生省などの公的助成金は女性には少ないようであります。女医の研究能力を発揮させるためには、日本女医学会が援助しなければならぬことを痛切に感じ、これからもこの点に関し、会員の皆様のご協力を切にお願い申し上げます。

その三の国際ファンドのことですが、日本女医学会は、国際女医学会のメンバーであり、次第にその地位を高め、今や米国について多数の会員を持ち注目されております。国際ファンドは、国際女医学会は国際的に日本女医学会が活躍するための重要な資金源であります。従来ありました国際ファンドの枠を拡大して大いに活躍しようというものであります。日本が国際的に発展すれば、それにつれて、われわれ女性も国際的に活躍の場が広がるのであります。欧米はもとより、中国はじめ東南アジア諸国まで連携の輪を拡げてまいらねばなりません。

これはまさに日本女医学会の活躍すべき方向であると考えております。その意味で国際ファンドの必要性が高まり、その枠を拡げねばならないと考えております。このように記念事業は、日本女医学会のため有意義に活用されておりますので、これを本会の活動の基盤として、今後の仕事の枠を次第に拡大したいと思ひます。

特筆すべきことの第二は、事務所移転の披露と同時に創立六十五周年記念行事を開催したことでありました。本会の歴史は古く、始め明治三十五年以前田園子先生が同志と語り、四十五名と集つてから八十年を数えるのであります。会が、皆様の協力によって、平和とゆとりを持ち得たことによるのであります。この点から感謝しております。

皆さまとともに、六十五周年記念式を契機として、日本女医学会を立派に日本女医の本拠として発展させたいと念じ、努力したいと存じます。本年は国際女医学会総会が十一月にマニラで開催されます。参加者が昨年のバーミンガムより少ないという

ことで、主催国フイリピン女医会長からも多数の参加者を希望して来られましたので、今からでも遅くないようですから奮ってご参加下さい。欧米のみでなく、近くの東南アジアを知ることは、これからの国際情勢の上で大変なことで存じます。日本女医学会の視野を広くする意味でご参加していただければと存じます。

今年には吉岡賞該当者がありませんで淋しい感じがいたします。学術面で立派な方がありましたが、提出が

総会に出席して

本年の総会は五月三十日(日)の午後、思い出多い京王プラザにおいて開催された。前以って役員改選などのあることも承知していたので、清水支部長が止むを得ざる事情により欠席とのことに、一人だけでも出席して諸々の責めを(支部への伝達をも含め)果たしたいとは考えていた。

しかし、前日は至誠会総会が河田町至誠会館で、前々日は労働省主催の第七回日本婦人問題会議が、大手町のサンケイ会館で行われる。それらへの出席のため上京の決心をする

おくれ切に間に合いませんでした。公の会ですから規則を乱すわけには参りませんので、残念なことでごございました。今後どしどしすぐれた方を規則にしたがってご推薦下さい。

時間の都合もありますので、この位にして終りに皆様とともに本総会がつつがなく終了するよう、また日本女医学会がますます発展するよう祈念してご挨拶にかえさせていただきます。

山梨支部 小林 梅子

に連続三日間の東京滞在とはなつたのである。

ところが、いざ上京の前日頃本部より「四名の役員立候補辞退がありしたため、今回は選挙はなし」との通知入手。なんとなく気の抜けた感じのする一面またほっとする。

当日は午前中の評議員会に引きつづき、午後の総会も誠になごやかにすすめられ、各部からそれぞれの内容の説明があり、広報部からも会員の支部活動やご意見など承わりたいと、また次期開催は五十八年度の岡山に続いて五十九年度は神奈川が開催地と決定された。質問も前向きであり、反対のための反対発言など全



総会風景

くみられなかった。

とにかくスムーズにおだやかに、和やかに、トントントン拍子に会は進行し、予定時間に余裕をもって、あつけなく(申し訳けない)終りとなった。過去に、この同じ京王プラザの会場でも、もめにもめ、役員改選などでは投票用紙の取扱いも嚴重を極め、選挙のやり直しまでして緊張感のみなきつていた総会、いつまでも後味の悪い印象を残した数年前のあの頃に比べると、なんとまあ、品よく変わったことであろう!

ここにいたる舞台裏のいきさつについては何も存せぬ身ではあれど、その土台となつたであろう両者の反省と努力に対して、心から感謝と応援の拍手を贈りたい。新役員は幾分若かえつた様子、恐らく会を愛し、その運営、発展に情熱をかけておられる方々と思う。学校差、地域差、年齢差を克服して、どうぞ仲良くしつかりと、そしてよろしくよろしくお願ひする次第である。

懇親会に出席して

梅雨明けも間近になりましたが、まだまだ水不足の地方もあり、また大雨の被害をうけられた地方もあり、なかなか思うようにならないものがございます。

先日は慌ただしく上京し、第二十七回定時総会に出席、引き続き懇親会にも出席出来る機会に恵まれました。その感激と興奮も束の間で、田舎での診療の明け暮れに月日のたつことも忘れる毎日でございましたが、思いがけなく投稿依頼のお電話をお受けして全く戸惑ってしまいました。

今回は役員改選の年に当っておりましてので何か緊張した気分になっていましたが、選挙投票もなく新しい役員が決まり、総会も無事盛会に終了し引続き懇親会に臨みました。

華やかな会場で美味しいお料理をいただきながら、三神会長先生はじめ大先輩の先生方の益々お元気で矍鑠としておられるお姿に誠に心強く、また全国各地から出席された会員の先生方に親しくお目にかかれて時のたつのも忘れる和やかな楽しい集まりでございました。日本女医学会誌でお名前を存じあげている先生、遠くから上京された先生方とも同席して

愛媛支部 星加 光江

心から打解けたお話が出来て深く感動いたしました。今までのためにも格別のお骨折りにいただいた役員の方、生方ほんとに長い間ご苦労様でございました。感謝の気持ち一杯でございます。また新しい役員の方もお忙しい診療の外のお仕事並大抵のご苦労ではないと思われませんが、どうかよろしくお願ひいたします。

名残りを惜しみながらお別れしてもう一カ月余りもたつてしまいました。会員の皆様にはそれぞれの持場で活躍のことで存じます。今日まで発展した日本女医学会の逞しい流れを皆様と一緒に力を合わせて盛り上げるように一層の努力をしたいと思っております。毎日の診療の中で女医でなければ出来ないことを育てて行くことが、女医学会の心にもつながるのではないのでしょうか。夢中で過しておりますうちに人生の節目となりましたが、これからまた新しい人生の出発と心掛けてつとめて会にも出席し心の交流を図りたいものと考えております。新しい会員も加えての輝かしい日本女医学会の発展を祈つて筆を擱きます。

昭和五十七年七月

社団法人 日本女医学会
定時総会議事録

日時 昭和五十七年五月三十日(日)
場所 京王プラザホテル(東京都新宿区西新宿二二二一)

午後一時四分開会

司会 松岡 宏子

社団法人日本女医学会総会開催に際し

会員数 三、〇三八名

通知発送数 三、〇二一名

出席数 一、二八名

記名委任数 七二六名

白紙委任数 四五三名

合計 1,307名

以上のとおり日本女医学会定款第二十七条の定足数に達し、総会が成立する旨の報告あり、開会を宣す

会長挨拶 三神 美和

(1)総会にあたり全国から多数の会員の出席を感謝するとの挨拶あり

(2)議題について審議をよろしくお願いしたいとの希望を述べる

(3)国際女医学会記念事業の一端として懸案であった事務所移転問題が解決された。第二として優秀な研究者に授与する学術研究助成も応募者が多数ある。第三として国際ファン드의枠を広げ

国際交流を盛んにする
(4)マニラで開催される国際女医学会に多数の参加を望む

物故者への黙禱

会員物故者二十三名に慎んで黙禱

役員立候補者発表

定款第十五条の規定により現役員任期満了にともない役員立候補の届け出を行った結果理事三十九名、監事三名の立候補者あり、その後刻理事立候補者中四名が辞退し、したがって理事三十五名、監事三名となり、いずれも定数であるので定款施行規則第二十三条によつて無投票当選となる。

理事(届け出順)

山本 杉、佐野アヤ子、橋本葉子、平瀬文子、荒木律子、明石み代、鈴木文子、三好美春、蓮井敏子、石原幸子、井上柳子、森川みどり、山崎倫子、柳瀬路子、久保田くら、三神美和、稲葉幸子、小侯喜久子、川口正子、佐藤千代子、川島富久子、野沢良美、藤田親代、丸山美実、町田俊子、関口喜久、藤井壽子、福永ひろ子、マッキンストリ千枝子、石川文子、鶴川美登里、八木貞子、森 智代、野呂幸枝、白橋美笑

監事(届け出順)

山口三重、西山喜代子、添田百枝

承認

報告

一、会務報告及び事業報告

久保田くら

配布済みの資料にもとずいての報告あり

二、昭和五十六年度特別会計報告

佐藤千代子

吉岡弥生賞基金

年金

ルーペンゲン

国際女医学会記念事業基金

以上について配布済みの資料にもとずき報告あり

三、国際連絡書記報告

山崎倫子

(1)国際女医学会第十八回国際会議は、今年十一月二十一日から二十七日までフィリピンのマニラで開催される

テーマは、"Humane Management in Medicine"——心ある医療と人間性のある医療——である

日本から多数の参加を望む

(2)役員選挙が行われるが、西太平洋地域から佐野アヤ子氏が副会長に立候補している

(3)国際基金へ国際女医学会のバッジの入ったマジックハンガーを愛知支部と日本女医学会とから百個寄付する

(4)国際女医学会事務局を引き受けて下さる国を求める

(5)シエラレオネから姉妹女医学会を結びたいとの申し出がある

(6)国際女医学会開催は、理在隔年になっているが、三年に一度開催することにしてはどうかとの申し出がある

議長選出

高間美さ保、日野チヨコ、田原順子

議長選出

議長選出

第一号議案

一、昭和五十六年度一般会計収支決算

配布済みの資料にもとずいて説明あり

承認

二、剰余金処分案

佐藤千代子

剰余金を次期会計へ繰り越す件を可決

山口 三重

会計監査報告

昭和五十七年四月十七日監査の結果適法かつ正確であることを認め

る旨の報告あり。

第二号議案

昭和五十七年度事業計画案

庶務部

久保田くら

役員改選

会員名簿の作成

小侯喜久子

学術部

講演研修会

研究助成

吉岡弥生賞

事業部

へき地診療への助成

稲葉 幸子

公衆衛生、社会福祉への助成

支部助成

年金

ルーペンゲン

渉外部

竹内 静香

国内及び国際交流

広報部

野沢 良美

機関紙の発行

創立六十五周年記念行事特集

号の発行

以上 承認

第三号議案

昭和五十七年度一般会計収支予算案

配布済みの資料にもとずいて説明あり

承認

第四号議案

次々期総会開催について

三神 美和

神奈川支部にて開催と決定

学術研究助成金授与

二十四件応募された研究について

選考審議の結果、五名を該当者と決定

石橋梯子、川浪祥子、竹内美恵子、田中富久子、泉二登志子

理事の互選による新会長、副会長、常任理事の選出

定款施行規則第十五条、第十六条

にもとずいて会長、副会長、常任理事が選出される

(アイウエオ順)

会長 三神美和

副会長 小侯喜久子、福永ひろ子、山崎倫子

常任理事 稲葉幸子、久保田くら、佐藤千代子、佐野アヤ子、白橋美笑、野沢良美、橋本葉子、平瀬文子、丸山美実、森川みどり、八木貞子、柳瀬路子

理事 明石み代、荒木律子、石川文子、石原幸子、井上柳子、鶴川美登里、川口正子、川島富久子、鈴木文子、関口喜久

野呂幸枝、蓮井敏子、藤井篤子、藤田親代、町田俊子、マッキンス、トリ千枝子、三好美春、森智代、山本杉

監事 添田百枝、西山喜代子、山口三重 承認

司会者より閉会を宣し終了

午後四時五分閉会

議事録が正確であることを証するため議長及び議事録署名人の署名捺印をする

昭和五十七年五月三十日

議長 高間美さ保

議事録署名人 田原 順子、日野チヨ子、齋藤 歌子、川口夫佐子

議事録署名人 齋藤 歌子、川口夫佐子

社団法人 日本女医会
定時評議員会議事録

日時 昭和五十七年五月三十日(日)

場所 京王プラザホテル(東京都新宿区西新宿二二二一)

午前十時一分開会

司会 尾中 妙子

社団法人日本女医会評議員会開催に際し

評議員数 一〇六名

出席数 五九名

記名委任数 二一名

白紙委任数 一一名

計名 合91

以上のとおり日本女医会定款第二

十七条の定足数に達し、評議員会が成立する旨の報告あり、開会を宣す

岡山支部よりのオブザーバーの出席を認める

会長挨拶 三神 美和

(1) 全国から多数の会員の出席を喜ぶとの挨拶あり。議題について審議をよろしくとの希望を述べ

(2) 国際女医会談記念事業の一つとして懸案であった事務所移転問題が解決された。また優秀な研究者に授与する学術研究助成も発足した

(3) 日本の女医のために日本女医会は力を貸し、国際的にも大いに飛躍していきたい

(4) 当会がますます発展することを期待し、会の盛会を祈る

報告

一、会務報告及び事業報告 久保田くら

配布済みの資料にもとずいて報告あり

二、昭和五十六年度特別会計報告 佐藤千代子

吉岡弥生賞基金

年金 ルーベンゲン

国際女医会談記念事業基金

以上について配布済みの資料にもとずいて報告あり

議長選出 稲生 襄

議事録署名人選出 西山喜代子、白井潔子

第一号議案

一、昭和五十六年度一般会計収支決算 佐藤千代子

配布済みの資料にもとずいての説明あり 承認

二、剰余金処分案 佐藤千代子

剰余金を次期会計へ繰り越す件を可決

会計監査報告 山口 三重

昭和五十七年四月十七日監査の結果適法かつ正確であることを認める旨の報告あり

第二号議案

昭和五十七年度事業計画案 庶務部 久保田くら

役員名簿の作成 小俣喜久子

学術部 講演研修会 研究助成 吉岡弥生賞 稲葉 幸子

事業部 へき地診療への助成 公衆衛生、社会福祉への助成 支部助成 年金 ルーベンゲン

渉外部 竹内 静香

国内及び国際交流 野沢 良美

広報部 機関紙の発行 創立六十五周年記念行事特集号の発行 以上 承認

第三号議案

第四号議案

次々期総会開催地について 三神 美和

神奈川支部にて開催と決定 司会者より閉会を宣し終了

昭和五十七年度一般会計収支予算案 守安 素女

配布済みの資料にもとずいて説明あり 承認

学術研究助成のご案内

一、助成の趣旨

医学分野の発表、向上を図り、後進の研究助成を目的とする。

二、助成金額 総額一〇〇万円(三十四件)

三、申込手続

(1) 応募資格 日本女医会会員(新規加入者を含む)で個人、またはグループ(ただし、グループ研究においては会員が研究推進の中心的役割をになうものであること)

(2) 助成期間 一年を原則とする。継続を必要とする場合は改めて申請を要する。

(3) 応募方法 本会所定の用紙に、黒インキ

午前十一時七分閉会

議事録が正確であることを証するため議長及び議事録署名人の署名捺印をする

昭和五十七年五月三十日

議長 稲生 襄

議事録署名人 西山喜代子、白井 潔子

議事録署名人 白井 潔子

学術部

で記入。

正一通と副一通(コピー)を提出(用紙は事務局へ請求のこと)

(4) 申込期間 昭和五十七年十二月二十五日必着

(5) 選考及び発表方法 選考委員会において選考の上、昭和五十八年三月末開催の日日本女医会理事会において決定し申請者宛通知する。

(6) 助成金の贈呈 昭和五十八年五月三十日開催の日本女医会総会の席上

(7) 受賞者の本会に対する義務 昭和五十九年三月末日までに研究経過報告(B5原稿用紙三枚)と助成金使途についての簡単な収支報告の提出のほか、後日、日本女医会主催の研究会において研究内容について発表をすること。

(8) 送り先 日本女医会本部

前会長 龍知恵子先生を偲ぶ



故 龍 知恵子先生

昭和五十七年六月七日逝去(享年八十二歳)

恩師 龍先生を偲んで

世田谷支部 白井 潔子

私の人生に最も大きな影響をお与え下さった龍先生。恩師であり、母上でありまた姉であった先生のありし日の思い出を私なりの角度からお話し申し上げたいと思います。母校の大先輩として社会人としてまた研究者としての数々の業績は多くの方々から語られることとございます。私からは昭和十六年母校卒業後額田学長の医学生物学研究所に奉職いたしました。ここで美しい、しかもちよっぴり気むずかしさと威厳を備えた龍先生にお目にかかりました。爾來四十年の長きにわたりご薫陶を

賜わったわけでございます。最初の七、八年間は研究所で寝食をともにいたし日夜僥まぬご指導をいただきました。その折のおはなしをいたしましょう。卒業後三年、それは全く師弟奉公の時代でありました。そのことが今日そのまま受け入れられる教育態勢ではございませんが、私の人生にとって最も貴重な時代であったと思えます。(1)一年中午前六時起床、動物実験室の尿器洗い、餌作り、手はかじかんでみるも無惨、たらの子のような

手。しかも、モルモット、マウスが死ぬことがあります。大切な動物です。私達は一生懸命お世話しましたのに。そのような時一言の弁解もゆるされません。

(2)廊下掃除、お手洗の掃除、とことんまで仕込んで下さいました。ある日「手洗が一寸よごれていますね」と一言、回診すんでからと院長先生の太刀もちいたし、戻ってみれば、龍先生がもうきれいにしてしまわれています。二、三日はお口をきいて下さいませ。

(3)入院患者のお薬作りを薬剤師さん方とラジオから流れる国民歌謡を口ずさみながら、いともご機嫌にいたしておりますと、突然あらわれた先生、ラジオのスイッチを切つてゆかれます。みんな呆然!!

つまりどんなことも綿密に、正確に心をこめて、しかもいっつけられたことは即座に、一つの仕事に打ちこんで真面目におやらないということなのです。後年私も人を使う身になり、人の娘をよくもここまでお仕込み下さったものと、その愛情の深さに感銘感謝申し上げております。また、こんなきびしい反面、次のようなこととございました。私ども夜おそくまで研究室でお仕事しております、お腹がすきますが物資不足の折柄とて、せいぜいおさつなどぶかしてという時代。漸やく仕事を終えて、医局にもどりました時、おいしそうなお雑煮が出来ていて、きよ子お腹がすいたでしよ、お餅をやいて

いれればよいようにしてあります”との紙きれ、思わず涙、涙でございました。

このように若き日、きびしい先生も晩年はきわめてやさしく、何か会合のありました折には、必ずおねぎらいのお電話を頂戴いたしました。またこんなこともございました。何も彼もご承知でいらつしやるのに、冠婚葬祭のことでございましたか“私はこう思うけど今はどうなの？”教えて下さらない”などと謙虚なお

大先輩龍先生の思い出

台東支部 尾中 妙子

龍先生を始めて存じあげたのは、昭和十七年の春、先生が府立第一高校の校医、私が女学校の一年生の体检の時だと思えます。当時をふり返りますとあの立派な大先輩の甲辞をお引受けするようになることは夢のような気がいたします。何か先生とは深い因縁があったように思われてなりません。

先生は帝国女子医専の一回生私は最後の医専の卒業の二十二回生、学生医局時代を通じて、遠い先輩という間柄でお話をするようになったのは私が鶴風会の理事になった昭和四十一年頃からでした。その後日本女問い合せ、こんなお生活態度も感銘を受けました。晩年は趣味の長唄、本当にやさしい親孝行のご令息夫妻とお孫さまにかこまれて、やさしかった亡き夫君を偲びつつ、しかもまだ理想に燃えて、まことに御見事なご一生であったと存じます。思い出はつきませぬが、更めて生前賜りましたご厚情を感謝しご冥福を祈る次第でございます。

医会の理事になりましたからは、故上田葉先生とともにこの不肖の女学校の後輩に「理事会には必ず出席するように」とのお言葉をよくいわれ耳が痛い思いでした。

いつも一糸乱れぬヘアースタイルを整えられ丁寧なお言葉で話されていた先生は誠に女性そのものといった感じでした。晩年になられてからもその美しさは変わらず、やさしいご主人と頼もしいお子様に囲まれて花の沢山飾ったお部屋でお幸せそうでした。その後先生ご自身の手術、ご主人の死去という思いがけない大危機ものり越えられて近年はおみ足が

龍知恵子先生を偲ぶ

千葉支部 町田俊子

ご不自由なこと以外はお元気そのものでした。本年になり東邦大学眼科学教室の大岡教授ご退任の祝賀会では、卒業生を代表して祝辞をのべられました。この祝辞の内容は三神会長の祝辞とともに大岡教授が医学部長に迄なられたことを大変喜ばれ女医であるための苦難の道をのりこえ花が開いたという風に形容され、お二人とも女医の先駆者としての医学への道に対する若々しい情熱を傾けられた実にご立派な祝辞でございました。

特に龍先生の杖についてのご健闘には感謝の言葉もない程でした。これが四月で五月にはもう床についておいででした。お見舞いのお電話をした所リンゴだけは食べられるとのこと早速お送りしました。五月九日に私は鶴風会理事長にはからずも就任いたしましたので一応お見舞い方々お電話をしました所大変お元気なお声で「頑張つてね」との喜びの言葉を戴きました。でもこれが最後でした。親類の方々からのお話ではご息夫妻の夜も徹しての厚い看護をうけられ大変満足しておいでとのこと。またよくなられて美しいお姿が拝見出来るのではないかと思っておりましたのに、大変淋しい思いがしております。

今は心から先生のご冥福をお祈りしかつ先生のご意志を継いで女医として一層の勉強を行いたいと思っております。

六月七日、龍先生は、その実に充実した生涯を閉じられた。先生の公人としての業績についてはすでに、言い尽くされ、多くの先生方のほうがはるかに詳しい。私にとつての龍先生は、全く私的な関係において約四十年の歴史がある。私が先生のお世話になった始りは、私の小学生の時であった。「ツ反応の陽転した子」として小川町の額田内科に通院して、先生のご加療とご指導を戴いたのから始る。

その頃の先生は、美しい独身の女医として、稲毛の額田研究所に起居されて、研究に診療に過され、そこから神田小川町の額田内科に外来診療にお通いになっていった。いつの間にか、「あたしの子よ」と人々に紹介され、小川町で、稲毛の研究所で、後に開業された日本橋本石町で、またご自宅の四谷、次の市ヶ谷、龍神経科などに私をお連れになって、お食事を下さったり、こまごまと私にしつづけをなさったりして下さった。そして、「いい子でしょ、あたしの娘よ」と言つて下さるのが常でした。額田研究所をやめられて、日本橋に

生についての思い出は、余りにも多く書き尽すことは出来ない。そして可愛がつて戴いた龍先生に何一つとして報いることなく龍先生は静かにみまかつてしまわれた。ただただ龍先生のご冥福を祈り、ご遺族のなご一層のご繁栄を念じ、そして

国際女医学会の募金および物品募集にご協力を!!

先生の愛して止まなかった、日本女医学会のために、そして先生のお世話になった日本女医学会の先生方のためにも、先生方のご鞭撻を得て、微力を尽くしたいとひそかに考える。龍先生、安らかにおねむり下さい。

合掌

第十七回国際女医学会において、副委員長（西太平洋地区）に選ばれ、募金委員長に再選されましたことは、日本女医学会会員の皆様のご協力のおかげと深く感謝いたしております。この度の募金目的は主にアフリカのナイジェリア・プロジェクトの Health Clinic（保健所）のために用いられます。

また昭和五十七年十一月二十一日、二十七日まで、第十八回国際女医学会議開催にあたり、その会場で、International bazaar を開催することに決定しました。すでに世界各国へ募金、物品募集の協力を呼びかけ、CircularまたはNews Letterにより、おしらせしております。各国のお人形、タオル、ハンカチーフ、ハンドバック、財布、小皿、おぼん、計算機、ボールペン、シャツ、布地、装飾品等なるべく小さいもので結構です。心をとめて、たくさんもちよって、盛大にやりたいと存じます。

当会議に出席でない方も、ふるつてご協力をいただきましたと、お願いいたします。

左記宛にお送りいただければ幸いです。
メ切 昭和五十七年十月三十一日
一口 五千元（現金封筒使用）
宛先 東京都渋谷区渋谷
二一八七 タウンシップ
青山宮野ビル三階
日本女医学会本部

国際女医学会募金委員長
佐野アヤ子宛
電話 四九八一〇五七一
昭和五十七年七月二十日



Circular Letter No.66

国際連絡書記 山崎倫子(訳)

国際事務局の移転問題が解決をみないこと、役員間の連絡不十分なこと、オーストラリアの長期に亘る郵便ストのため国際会長と連絡が取れなかつたこと、等の理由でサーキュラーが遅れました。お詫びします。

Dr. Redshaw・Dr. HolmstromとDr. Corner 三人が五月ウィーンに集まり今まで保留になっていた問題を解決することと思ひます。

さて、先ず Dr. Lore Antione がこの二月二十八日八十七才で逝去なさつたという悲しいお知らせをしなければなりません、大腿骨折で何週間も入院なさつたまま、静かに死去されました。一九五八―一九六六まで国際副会長をつとめたあとM W I A 会長に選ばれ、一九六八年迄会長を務めました。その間にウィーンに国際事務局を設立し、国際会議を開催しました。Dr. Antione は素晴らしい知識人であり文化人でした。彼女を知る人は皆彼女への尊敬と敬愛の念を持ちつづけることでしよう。

M W I A マニラ会議

フィリピン女医学会は非常に効率的

に全ての準備を完了し、私達の到着を待っています。正確ではありませんが略五〇〇名が登録を済ませたとのことです。

学術プログラムも完了し現在七十の演題が提出されています。全文は七月迄に Dr. Santos 宛送ることになっています。前回の二回と同様、記録には抄録のみが掲載されます。全文の希望者に対してはコピーを作成する用意があります。

若い会員のための Work shop

四十才前後の若い女医の問題を考へる Work shop が開かれることはすでにお知らせした通りです。Dr. Gomez は登録費を半額にまた宿泊の便宜も配ろうなど好意を示されています。各国から一人宛お申し込み下さい。

Work shop では一九八一年各女医学会宛に送ったアンケートの分析をもとに討論を行うことになっています。この Work shop を成功させるために、全ての女医学会からアンケートに対する解答を送り返して欲しいのですが、次に記す女医学会からは届いて

いませんので至急 Dr. Otten 宛直送下さい。

オーストラリア、フランス、ガーナ、インド、イスラエル、韓国、ニュージーランド、ナイジェリア、フィリピン、シエラリオーネ、スリランカ。

一九八二年度五十年会員について

五十年以上M W I A 会員である方々には今回もマニラで五十年会員の証書をお渡しします。資格者は、一九三二年以前に加盟した女医学会会員に限られます、すなわち、オーストラリア、カナダ、デンマーク、フランス、ドイツ、印度、イタリー、日本、ニュージーランド、スエーデン、スイス、英国及びアメリカ女医学会の会員ということですが。

一九八六年、第二十回国際会議の開催地とテーマはマニラで決定されます、ご意見を送って下さい。

スイス

連絡書記 Dr. Hoshi Gross によるとスイスでは六十人の会員増がありました。またバーゼルとジュネーブに支部ができました。

スペイン

スペイン女医学会は維持不能となり解散しました。Dr. Concha Albalat は当分個人会員として残りたい旨の申し出がありました。

メキシコ

一九八二―一九八四中期の中南米地区副会長候補にメキシコ女医学会から Dr. Pilar G. Reyes が立候補するという喜ばしい連絡を受けました。彼女は十年間の卒後教育を経て現在メキシコ市にある国立小児研究所の遺伝学専門官としての地位にあります。

アイルランド

アイルランド医師会の女医グループからM W I A 加盟についての詳細な問い合わせがありました。マニラ会議の席で正式に加盟するものと期待しています。

姉妹団体

シエラ・リオーネから工業国女医学会と発展途上国女医学会が姉妹関係を結ぶよう申し出があり、幾つかの女医学会からも関心が示されています。このことについてはマニラ会議で取り上げるか否かを検討したいので、ご意見をお寄せ下さい。

国際会議開催頻度について

旅費、登録費等の上昇による理由から、国際会議は隔年ではなく二年に一度開催することにしたかどうかの再検討をするようオランダ女医学会から申し出がありました。

新国際事務局

前回の役員会で英国のアリストルに移すことを了承、名譽書記には Dr. Dorothy Ward が選ばれたが、彼女はスコットランド在住のため、グラスゴーかエディンバラに新事務局を移してほしい旨申し入れました。しかし Dr. Corner がプリストルを主張しているため結論がでないのが現状です。

この際他の国から新事務局を引き受ける申し出があれば受ける用意があります。新事務局を置く場所については国際役員会が決定し、名譽書記は事務局を置く国の女医学会が選任することが規約になっています。何れもマニラ会議の総会で決定承認されなければなりません。

No.67

皆さんご機嫌よくお越しのことと思ひます。

先ず悲しいお知らせ、元国際会長 Dr. Janet Atkin が去る四月二十一日、九十七才で死去されました。

Dr. Atkin は一九五〇年から五八年まで名譽書記、五八年から六二年

まで国際会長をつとめました。大変チャールディングで気品のある礼儀正しい方であったと聞いています。始めの職業はオペラ歌手で後に医学の道に進んだのだそうです。Dr. Cornerがマニラ会議の席で追悼記念講演をします。

Dr. Redshaw, Dr. Corner, Dr. Holmstrom が五月から六月にかけてウィーンに集り保留になっていた問題につき検討しました、以下重要な点のみお知らせします。

マニラ会議

NCS (国際連絡書記) の集りが十一月二十一日(日)午後六時からあるの間に合うよう到着のこと、翌二十一日(月)十二時四十五分からNCS昼食会がある。もしNCSが会合に出席できない場合は代理を指名、委任すること。

NCS はバーミンガム会議からマニラ会議までの自国女医学会の報告及び一九八一・八二年の統計報告をまとめ提出のこと。

◎総会(註: 会長、副会長報告、事業報告等の他予算、決算、役員選挙、次々期開催地及びテーマの決定等が行われる)

- 第一回総会 十一月二十三日(火) 曜) 午後四時から
- 第二回総会 十一月二十六日(金) 曜) 午後二時半から
- 閉会式 十一月二十六日(金) 曜) 午後四時十五分

から
となつています。

お土産の販売

従前通り、今回もお土産や寄贈品の売場が設置される。会員が持ちよる土産品、寄贈品の売り上げは国際女医学会の利益となる。ご持参いただきたいのは各国独特のもので、例えば手細工品、刺しゅう、陶芸品、人形、スカーフ、テーブルクロス、ナフキン、袋もの等が望ましい。

名誉会計

留任の予定であったDr. Holmstromが辞任することになり、代ってDr. Anna Bogg Bergmanが候補となった。彼女はスウェーデン人で最近引退した皮フ科医である。

一九八六年の国際会議

第二十回 MWIA 国際会議を主催する女医学会の招待を待っている。またトピックスについてのご意見を送ってほしい。

ニュース・レター

郵税の関係上一部しか送らないがぜひ会員の皆さんに読んで貰うよう取はからって欲しい。(註: 日本女医学会誌に毎回訳文掲載)

新事務局

新事務局及び名誉書記の件についてはまだ解決されない。Dr. Redshaw 会長がウィーンで決定できるように、国際役員に意見を求めていたが、全

MWIA NEWS No. 3

一九八二年三月号

国際連絡書記 山崎 倫子(訳)

ODr. Redshaw 会長の旅行

(国際女会長は自分の任期中に世界中の女医学会を訪ねる義務がある)

一九八一年五月訪米。ユニセフ役員会議に出席。ニューヨーク市女医学会支部及びニューヨーク州女医学会支部の会合に出席した。ニューヨーク州立医大の「医学の日」に始めて榮譽ある女医として開演演説を行った。また、フィラデルフィアに Dr. Alma Morani を訪ねたあと、ペンシルバニア医大の一九三一年卒業の五十周年記念級会に出席、再びニューヨークに戻り、ニューヨーク州女医学会から選ばれた「今年の女性」Dr. Lila Wallisを訪ねた。

国際女医学会役員会へ出席の途中、チューリッヒでスイス女医学会の会員達とあった。

九月にはワイリピン女医学会31回総会に参加するためマニラ訪問、十一

回答を得たにもかかわらず、意見が一致せず決定をみるにいたらなかった。

たまたま、現在ある国から申し入れを受けたがまだ公表の段階にない。Dr. Redshaw はこの事情を改めて国際役員に送り検討することになった。以上

日の式典と十二日の学術集會に出席した。十三、十四日はCIOMS(国際医学協会)の集會にMWIA正式オブザーバーとして出席、その後南ワイリピンのタバオ及びセブ医科大学を訪問した。

○国連報告

Dr. Satty Kewani, Dr. Rose Nemir はMWIAの国連NGO代表として「国連婦人の十年」の事業に参画した。安全な水の確保と衛生思想の普及活動、国際障害者年の特に児童障害者関係の諸事業、普通児と一諸に学び一諸に遊ぶこと等の教育、啓蒙、デュー、ケア、センターのハンドブック発行等、NGOの事業に協力参加した。

「西歴二〇〇〇年までに世界の全ての人に健康を」をスローガンとした冊子の発行が数カ国語でされた。

NGO、ユニセフ、ニュース、レターは世界各地における難民問題、乳児死亡率、育児についての計画を報告している。母乳問題や障害をもつ子供に関するセミナーにDr. Kewaniが参加した。小児科医のユニセフへの協力が望まれるとMWIA代表は述べている。

UN・ユニセフ・WHOが行っている事業についての展示が一九八二年、マニラでのMWIA会議の時に行われる予定である。

○名誉

前国際女医学会長、小野春生先生はJMWIAとMWIAにおける長い間の奉仕と功績に対して日本女医学会から優功章が贈られた。

日本女医会理事、森川みどり氏は長期に亘る公衆衛生の向上への貢献に対し厚生大臣賞を受賞。同じく学校保健に業績のあった熊谷美津子氏も厚生大臣賞を受賞した。前記、森川みどり氏と竹内静香氏は紺綬褒章を授与された。岸直枝氏は勲四等宝冠章を、阿部秀世氏は勲五等瑞宝章をそれぞれ授与された。何れの先生方も長期に亘って、社会福祉にまた公職に、地域にめざましい貢献をなさった方々である。

Dr. Mary Eiselemont は九十才の誕生日に女医連盟、アバデーン大学他多くの団体から表彰され、アバデーン市の自由(名誉市民)としてアバデーン市から礼遇されることになった。

アメリカ女医学会の Dr. Mathilda Vashak は一九八一年度のエリザベス・ブラックウェルメダルを受章した。

○国際関係

Dr. Saty Keswani はユニセフ及びユネスコにおける MWIA 代表として各種合同に出席し活躍している。Dr. Rosa Nemir は代表代理として各種合同に出席し活躍している。Dr. Marta Holmstrom は九月 MWIA を代表してポルトガルのリスボンで開かれた第三十四回世界医師会議に参加した。

Dr. Annemarie Schindler はジュネーブの WHO 本部での合同に MWIA を代表した。

○MWIAの若い会員

ドイツ女医学会会長 Dr. Ute Otten からの六月役員会での要望により、若い女医達の国際女医学会への参加を増やそうという目的達成のために、国際女医学会は何ができるか、についてマニラ会議でワークショップを開くことにした。すでに加盟女医学会に質問書を送ったが、九つの女医学会から返事があっただけである。しかしこの問題についてはマニラ会議の際にさらに追求してゆく予定である。未答の国からはぜひ返事を送ってほしい。質問は

- (1) 貴会の40才以下の会員の%は?
- (2) 新会員増強運動をやっているか?
- ? いかなる方法をもって?
- その効果は?

(3) 貴国における若い女医の需要と問題はどのようなものか? 若い女医達の MWIA への期待は何であるか?

(このことについては日本女医学会から既に返答済)

○その他

Dr. Liliana Aivisi イタリア女医学会経理担当はこの度三冊目の医学書「夫婦」を発刊した。一冊めは「婦人科女医の日記」二冊めは「閉経、安らぎ」である。

Dr. Adelina Huslein MWIA、母子保健委員長は二冊めの図書を発刊した。「私は成長するー愛、結婚、親子関係」一冊めは「少女のためのABC」、今年三月に三冊めの「若者における性行動の実態調査について」を出版の予定である。

日本女医学会連絡書記、山崎倫子氏は一九八一年三月、十五人の婦人団体関係者と共に中華人民共和国へ全国際女医学会の招待で十日間北京、上海、蘇州を訪問した。小俣喜久子、野沢良美、日本女医会理事も参加、山崎は大学婦人協会会長として団長を務めた。一九八一年六月ニューヨーク、サラトガスプリングスで開かれた、汎太平洋東南アジア婦人協会の国際会議で山崎倫子氏は一九八一年から一九八四年期の国際会長に選出された。次期国際会議は日本で開かれる。

帝京大学医学部、薬理学教授、藤井壽子氏が一九八一年七月、第八回

国際薬理学会のサテライト、シンポジウムを企画主催した。大成功を治めたこのシンポジウムのテーマは Non-steroidal Regulators in Reproductive Biology and Medicine (医学・生物学領域における非ステロイド性の生殖機能調節物質)であった。Dr. Solange Troisier 国際刑務所医学委員会会長は来る一九八三年カナダで開かれる第二回刑務所医学国際会議を主催する。

日本女医学会は六十五周年を記念してバザーを開いたが、その果実の中から三十万円をNHKを通じて障害者の福祉事業に、他に三十万円を小児と肢体不自由者のリハビリを行っている東京小児療育病院に寄付した。この病院と施設は東邦医大(前帝國女子医専)同窓会員により創立され運営されている。

○各国女医学会関係

ナイジェリア女医学会は五月イバデンで第二回大会を開いた。テーマは「障害者の介護の問題について」

日本女医学会通常総会が名古屋で開かれた。総会後、(1)女性社会における女医の役割、(2)地域医療と女医、(3)魅力ある女医会とは、のテーマでパネル討論会を開催した。

ファイリピン、イタリア、アメリカ、フランス、インドから総会報告あり。オランダ女医学会は三年の間に会員数が七〇〇から一、三〇〇にしかも約50%が四十才未満の会員である。若い会員を勧誘するために、一九七

八年オランダ女医学会はオランダ大学婦人協会と協力して「女性と医師」というテーマで会議を開いた。伝統的婦人の役割が社会変革に伴い拡大されていること、男性と比較して女性に対する健康管理が社会的にも文化的にも変わってきていること等新しい女性の前途について話題を提供した。女医学会として優先して行うことをリストにしたが、重要なものはパートタイムの訓練(実習)、保険料の均等、雇用の機会均等である。

○一九八二年マニラ会議

若い会員のワーク・ショップ
ウィーンでの役員会で決められた若い会員のワークショップには各国からなるべく四十才以下の女医一人を申し込むよう通知した通りである。候補者はワークショップに参加することで、ファイリピン女医学会は登録費を半額負担する。申し込みのない国からの申し出を早くお願いしたい。

○バザー

募金委員長、D. 佐野アヤ子氏は国際バザーをマニラ会議で行う。参加する会員は全て何か品物を持参していただきたい。

次回発行は一九八二年九月の予定です、ニュースを送って下さい。宛先
Dr. Beverley Tamboline
3050 West 27 th Avenue
Vancouver, B.C. Canada V6L1W5

寄贈図書及びパンフレット案内

全国婦人新聞・月刊前進座・ILLO ニュース・婦人展望・浴風会
日本文化協会より「光のプレゼント
ニュース」
日本中国友好協会より「日本と中国
社会法人倫理研究所より「新世」
総理府より「えがりて」
日本医療企画より「ばんぶう」
労働省より「日本婦人問題会議録」
日中医学協会より「日中医学
視点社より「平和への願い」
東京都より「働く女性みちしるべ」
「東京の女性」「都民女性の現状」
至誠会より「女医界」
荒川あや氏より「日本婦人連合会
報」
日本メルク萬有より「Cecata」
日本病院ボランティア協会より「病
院ボランティアだより」
「おもいで
草」
東邦大学医学部鶴風会より「鶴風」
大学婦人協会より「八十年代を生き
る」

東京都より「婦人情報センターだより」
日本女子社会教育会より「生活の見
直しと創造」
幼少児童健康教育振興財団より「遊育」
関西医科大学同窓会より「おとづれ」
東京都生活文化局より「国連婦人の
十年
国立婦人教育会館より「婦人教育情
報」
婦人国際平和自由連盟日本支部より
「婦人と平和」「国際青年セミナー」

国連NGO国内婦人委員会

連絡会報告

渉外部 柳瀬 路子

前年度から山崎副会長が大学婦人協会会長に就任されて、大学婦人協会を代表して連絡会に出席されることになったので、国連NGO国内婦人委員会の日本女医学会幹事として柳瀬が連絡会に出席しております。

連絡会は年一回行われる同委員会総会の準備会と、国連から婦人代表が帰国した時、開かれる報告会の準備とが主な会合でありました。委員会の構成メンバーは国際的な規模を持つ下記の十団体で、そのほか二、三の国連に関係したところのある個人メンバーを含んでおりますが、日本女医学会を代表する方はもちろん会長であります。

大学婦人協会・日本汎太平洋東南アジア婦人協会・婦人国際平和自由連盟日本支部・日本婦人法律家協会・日本婦人有権者同盟・日本基督教婦人矯風会・日本キリスト教女子青年会・日本看護協会・日本有職婦人クラブ全国連合会・日本女医学会
一九八一年度活動方針の主なものは「国連婦人の十年」後半期に入り、世界行動計画の目標「平等・開発・平和」の達成のために諸運動を推進

するといふ件のほか「国際人権規約完全実施をめざして運動をすすめる」という件でありました。

一九八二年度の活動方針は新たなこととして、今年開催された軍縮総会に示された核兵器廃絶を推進するよう国の内外に働きかけること、及び国連及び国際会議その他に婦人が多数国際公務員として採択されるよう働きかけたいということが加わりました。核廃絶の署名運動は日があつたので理事会及び東京都支部有志が行いましたが、本委員会より外務省国連局長宛国連へのNGO婦人代表を推薦するに当り、山崎副会長が挙げられまして、私も適任であることを力説大いにその実現を期待したのであります。

現在本委員会の委員長は藤田たき氏。副委員長は大羽綾子氏と佐野智恵氏であります。

理事会議事録

日時 昭和五十七年三月二十七日

場所 日本女医学会 会議室

出席(敬称略)

三神、福永、柳瀬、山崎、稲葉、小俣、久保田、佐藤、竹内、野沢、松岡、丸山、守安、八木、尾中、大原、川口、川島、齊藤、佐野、鈴木、野口、藤田、今野、添田、山口

欠席(敬称略)

川那部、清水、野呂、蓮井、平瀬、藤井、マッキンストリ、森川、山本

会議の冒頭に、全国女子医学生連絡会議準備会より後援団体の要請あり、庶務報告 久保田常任理事

2月27日 理事会を行う

3月4日 会費三カ年滞納者(一三三名)に納入依頼発送する

3月8日 定款一部変更の認可申請書を厚生省に提出する

3月13日 中国婦人代表団歓迎委員会に竹内常任理事出席する

3月24日 「ヨーロッパにおける婦人の地位」についてシモーヌ・ド・ボワヴァール氏の講演会に山崎副会長出席する

3月26日 中国婦人代表団歓迎委員会に竹内常任理事出席する

その他

・故福泉伊津子先生ご遺族より香典の礼状あり

・インドシナ難民を助ける会へ二

会計報告 守安常任理事 承認

二月分別紙とおり

議題

一、昭和五十七年総会について

(1)定時総会について

とき 昭和五十七年五月三十日

ところ 京王プラザホテル

評議員会 四階 雅

十時〜十二時十五分

総会 四階 花

一時〜四時三十分

総会費 三千円

懇親会 五階コンコードA

懇親会費 一万円

立食式で洋食、中華料理

出席者にさし上げる記念品に

ついては庶務部に一任する

京王プラザホテルの会場費は

半額奉仕

(2)評議員、予備評議員の選出を三月三十一日まで各支部へ願う

(3)役員選挙について

コンピュータの費用は約六

十万円、別に投票用紙一枚に

つき三円要する

二、昭和五十六年度決算案について

別紙資料のとおり報告あり、三月

末まで多少数字が動く

三、昭和五十七年度予算案について

別紙資料のとおり報告あり

火災保険に加入した場合及び役員

選挙になった場合のコンピュータ使用料がプラスされる

四、昭和五十九年総会開催地について

て神奈川支部へ依頼する

五、職員の昇給について

基本給の七%と住宅手当千円アップ

六、その他

(1)長嶋税理士顧問料値上げ要求について

月額現行二万円を二万二千元

に、決算時現行六万円を九万

円に決定する

(2)事務所及び会議室火災保険加入

について

東洋火災海上保険へ火災保険

を年払いかけすてに加入する

(3)中国婦人歓迎について

・四月十三日 午後六時より京

王プラザホテルにて中国婦人

代表団歓迎宴を行う

・四月十五日 午後六時より日

本教育会館にて団長康克清女

史の講演会あり

(4)青山宮野ビルに取り付ける日本

女医学会の看板について

当ビル共同袖看板取り付けを

願う

(5)会議室、貸室について

貸室規約を加多乃会及び鶴風

会より資料を取りよせる

(6)全国女子医学生連絡会議準備会

より

「家庭を持ちながら、医師、

研究者としての生活を継続し

たい」と真剣に考えている女



子医学生有志が、全国女子医学生連絡会議発足に際し、当会に後援団体としての要請あり、協力することを決定する

(7) 評議員及び予備評議員選出について

選出届のない支部に対し、再度依頼をする

(8) 喫煙ポスターについて

愛知支部で作成した「若い女性に対する喫煙の害キャンペーン」のポスターを日本女医学会事業として認め会員に送る

(9) 日本病院ボランティア協会より賛助会員賛同の依頼について

三口 九千円協力する

(10) 役員選挙について

役員立候補届を締切る昭和五十七年三月三十一日の届出数が、定員三十名以下の場合、再告示をし、応募締切日は、昭和五十七年四月二十日とする

三月三十一日までに届出のあった人は、選挙なしで当選となり再告示後の応募人数が合せて定員の三十五名を越えた場合は、再告示後の応募人数のみの選挙となる

(11) 国際女医学会連絡

国際女医学会マニラ会議参加予定者は現在日本から三十六名の申し出があり、世界から二百名とフィリピン女医学会五百名を予定している

同時通訳については、フィリ

理事会議事録

日時 昭和五十七年四月二十四日

場所 日本女医学会 会議室

出席(敬称略)

三神、福永、柳瀬、山崎、稲葉、小俣、久保田、佐藤、竹内、野沢、松岡、丸山、守安、八木、尾中、佐野、鈴木、蓮井、平瀬、藤井、藤田、マッキンストリ、山本、今野、添田、山口

欠席(敬称略)

大原、川口、川島、川那部、斎藤、清水、野口、野呂、森川

席務報告 松岡常任理事

3月27日 常任理事会、理事会を行

3月29日 事務所移転にともなう定款一部変更の件につき厚生省

ピソ女医会で手配する

・フィリピン女医学会が、五月十五日から三十日まで東京女子医大に研修のため訪日予定である

宿泊その他については、東京女子医大に願う

(12) 女性が創る婦人問題情報誌「あいの」の創刊のお知らせあり

(13) ルーペンタンテレビ放映のお知らせ

五月八日 フジテレビの予定

詳細は後日連絡あり

以上 久保田くら 松岡 宏子

収医第一三九号をもって認可される

学術研究助成申請者へ選考結果通知する

評議員及び予備評議員未選出支部へ再度依頼状を送る

3月31日

役員改選にともない理事立候補者三十九名、監事立候補者三名の届出あり

事務所及び会議室火災保険加入する

4月7日

評議員及び予備評議員へ委嘱状と支部会員名簿を送る

4月13日

中国婦人代表団歓迎宴に三神会長、柳瀬副会長及び稲葉、小俣、竹内、野沢、丸山の各常任理事出席する

4月17日

昭和五十六年度会計監査を行う

その他

・故内藤依子先生ご遺族より香典の礼状あり

・故島津草子先生ご遺族より供養の品あり

・学術研究助成者竹内美恵子先生より礼状あり

議題

一、定時総会について

(1) 会務報告、事業報告、昭和五十六年度決算、昭和五十七年度予算案について

配布済みの資料にもとずき検討する

(2) 評議員会、総会の議題及び次第について

・評議員会及び総会議題

一、昭和五十六年度一般会計収支決算

二、剰余金処分案

三、昭和五十七年度事業計画案

四、昭和五十七年度一般会計収支予算案

五、次々期総会開催地について

・評議員会及び総会次第

配布済みの資料にもとずき司会者及び報告者を決定する

役員選挙は、総会の会長挨拶、物故者への黙禱の後にする

(3) 役員選挙について

イ、受付で投票用紙引き替え券を渡し会場内で投票用紙に替える

ロ、選挙管理委員は、今回役員に立候補しなかった前役員と評議員の中から任命する

ハ、役員立候補者の紹介をし、この後の入場は出来ない

ニ、投票終了後コンピューター会社に運び投票用紙をコンピューターにかける。その時選挙管理委員が立合う

ホ、選挙の結果、同数の場合は、決選投票とし手計算による

ヘ、新役員会の中から会長、副会長及び常任理事を選任する

会長一名、副会長三名、常任理事六名の連記で選挙する

(4) 記念品について

モンブランのボールペンとす

る。詳細については、庶務部に一任する

(5) 会費について

総会費 三千元

懇親会費 一万円

二、その他

(1) 会議室貸室について

参考資料をもとに新役員において検討する

(2) 昭和五十九年総会開催地について

神奈川支部で開催地を引き受ける

会場は横浜市内

観光旅行は、市内観光、江の島、鎌倉、箱根

(3) 昭和五十七年度役員会開催日について

別紙どおり

(4) 「喫煙の害」ポスターについて

全会員に一部ずつ送付する

(総会資料に封入する)

(5) 宮野ビル臨時総会について

管理組合長宮野重夫氏に総会の決議権を委任する

(6) インドシナ難民を助ける会より難民救済奨学基金について

今回は協力できない

(7) 近畿日本ツーリストより第十一回健康教育会議とオーストラリア学校保健事情視察団募集について

募集依頼があるが、会員に通知しない

(8) エディコーポレーションよりのルーペンタンパンフレット送付

配布済みの資料にもとずき検討する

一、定時総会について

(1) 会務報告、事業報告、昭和五十六年度決算、昭和五十七年度予算案について

配布済みの資料にもとずき検討する

配布済みの資料にもとずき検討する

一、定時総会について

(1) 会務報告、事業報告、昭和五十六年度決算、昭和五十七年度予算案について

配布済みの資料にもとずき検討する

配布済みの資料にもとずき検討する

一、定時総会について

(1) 会務報告、事業報告、昭和五十六年度決算、昭和五十七年度予算案について

配布済みの資料にもとずき検討する

配布済みの資料にもとずき検討する

一、定時総会について

(1) 会務報告、事業報告、昭和五十六年度決算、昭和五十七年度予算案について

配布済みの資料にもとずき検討する

について

通信費がオーバーにならない場合パンフレットを封入する
(9) 国鉄運賃の値上げにともない新料金にて、役員の旅費交通費を支払う

(10) 国際女医会より

イ、シエラレオネより姉妹女医会の提案については、前回どおり不賛成
ロ、国際女医会五十年会員表彰あり

ハ、会員物故者氏名の報告

ニ、国際女医会会議開催年を三年に一度にする案については、日本としては賛成する

ホ、各国より一名若い会員のために参加費の経済的援助をする
(11) 創立六十五周年記念の写真集を総会会場へ掲示し、注文をとる
以上 久保田くら 松岡 宏子

理事会議事録

日時 昭和五十七年六月二十六日
場所 日本女医会 会議室

出席(敬称略)

三神、小俣、福永、山崎、稲葉、久保田、佐藤、佐野、白橋、野沢、橋本、丸山、森川、八木、柳瀬、明石、荒木、石川、石原、井上、鶴川、川口、鈴木、関口、蓮井、藤田、町田、マッキンストリ、三好、森、添田、西山、山口
欠席(敬称略)
平瀬、川島、野呂、藤井、山本

議題

一、役員職務分担について

(1) 各部役員について
各自より第一希望、第二希望を提出していただき決定する
庶務部/久保田くら、野沢良美、明石み代、荒木 美、三好美春
律子、三好美春
会計部/佐藤千代子、丸山実、石川文子、鶴川美登里、蓮井敏子
事業部/稲葉幸子、白橋美笑、石原幸子、川島富久子、関口喜久
学術部/橋本葉子、森川みどり、野呂幸枝、藤井 儔子、藤田親代
広報部/平瀬文子、八木貞子、井上柳子、川口正子、森 智代
渉外部/佐野アヤ子、柳瀬路子、鈴木文子、町田 俊子、マッキンストリ千枝子
山本 杉先生には、後日ご希望部を聞き決定する。

(2) 国際連絡書記

(3) 年金委員

三神美和、福永ひろ子、柳瀬路子、佐藤千代子、丸山実、小俣喜久子、稲葉幸子
(4) 学術研究助成選考委員会
三神美和、久保田くら、添田百枝、森川みどり、橋本葉子、藤井儔子、野呂幸枝

(5) 吉岡弥生賞審査委員

荒川あや先生に相談の上、後日決定する
久保田常任理事

庶務報告

4月24日 常任理事会、理事会を
行つ
5月4日 法人団体へ厚生省より事務連絡についての問い合わせに
対し回答する、また登記簿本提出
5月8日 婦人連合会全体会に柳瀬副会長出席する

青山宮野ビル袖看板取り付け完了する
5月10日 尾中妙子氏より理事立候補辞退届あり
5月13日 日本女医会誌、会務報告、役員立候補者一覧表、会費納入依頼、年金パンフレット、定款及び定款施行規則、あなたとタバコポスターを会員に発送する
5月17日 川那部喜美子氏より理事立候補辞退届あり
5月18日 齊藤イサヲ氏より理事立候補辞退届あり
5月19日 大原一枝氏より理事立候補辞退届あり
5月21日 役員選挙投票中止の通知を会員へ発送する
5月30日 定時評議員会及び総会を京王プラザホテルにおいて行つ
6月7日 龍知恵子前会長永眠す
6月10日 全国医科大学へ学位取得者及び国家試験合格者の調査依頼をする

依頼をする

6月22日 国連NGO国内役員会に柳瀬常任理事出席する
その他
・学術研究助成者川浪祥子先生より礼状あり

連絡事項

(1) 国立婦人教育会館五周年記念論文募集について
(2) 婦人学習活動交流発表会の開催について
(3) 昭和五十七年度女性学講座の開催について
催しについて
婦人団体関係の連絡には、従来柳瀬常任理事があたつていた場合が多いので、従来どおりよろしくろうとした
四月、五月分別紙どおり承認

会計報告

四月、五月分別紙どおり承認
議 題
二、その他
(1) 昭和五十八年総会について
岡山支部より総会日程について提案にもとずいて検討するとき……昭和五十八年五月二十八日(出)
評議員会、午前十一時三十分
(岡山支部案では、十時三十分となつていますが、当日東京から出席出来る時間に変更してほしい旨岡山支部へ依頼する)
総 会 午後一時~三時
(総会費三、〇〇〇円)
講演 午後三時三十分~四時三十分
懇親会 午後五時

(会費一〇、〇〇〇円)

(2) 役員会開催日変更について

イ、昭和五十七年十一月の役員会は、国際女医会がマニラで開催されるため中止する
ロ、昭和五十七年十二月の役員会は、第三土曜日の十八日に常任理事会、理事会及び忘年会を行う
(3) 会員に対し、銀座ムネットモ宝石店の商品特約販売について
特約販売を決定
(4) 日本文化協会光のプレゼント運動委員会より協賛会費依頼について
一万円寄付を決定
(5) 世界身体障害芸術家協会より絵はがき、ハンカチの協力依頼について
二千元送金を決定
(6) タイプライターについて
修理点検し、山崎倫子先生に使用してもらふ
(7) 「あなたとたばこ」パンフレット配布について
文部省関係にも送付した、事務局に残部があるので広告宣伝を願う
(8) 職員ボーナス手当について
二・三カ月と決定
(9) 東京都内支部連合会のようなものを作つたらどうかとの案が提案され、今後準備委員を選出し、検討していくことを決定する
以上 久保田 くら 野沢 良美

会員動静

入会会員(敬称略)

北海道支部 正宗 恵
山形支部 海野淑子
福岡支部 三原伊保子
佐賀支部 織田美代子
永田美和喜

自然退会復活者(敬称略)

宮城支部 清水洋子
北支部 三好美春
中央支部 羽生通恵
都下支部 上高嘉納子

退会会員(敬称略)

北海道支部 服部恭子
福島支部 金児雪江
千葉支部 小倉成美子
白戸佐和子
葛飾支部 荒木美代子
品川支部 田辺久子
豊島支部 中村菊枝
練馬支部 下田喜久代
森田千枝子

学内支部 山形恵子
都下支部 白石 公
富山支部 永崎みのる子
福井支部 小林百合子
奈良支部 堀内喜代子
和歌山支部 高垣サヨ
徳島支部 大曾根義子 多田節子
高知支部 高橋かず 高橋竹代
谷 清 玉木三和子
近森万鎖子 寺尾澄恵
峯横閑子 三木 鈴

自然退会会員(敬称略)

山口泰子 和田信子
北海道支部 野原八千代
山形支部 本間芳枝
福島支部 矢吹和子
群馬支部 海老原ふみ江
鈴木由紀子 武士清子
三丸昭子
埼玉支部 津村曜子
千葉支部 小倉恒子 岳 マチ子
足立支部 中条みよ
板橋支部 花岡利恵子
大田支部 奥山裕子 下重康子
中山綾子

北支部 木村静子
江東支部 坂本備子 西野満枝
品川支部 氏原多満子 佐藤桂子
渋谷支部 井廻万里
新宿支部 秋久理真 津保悦子
豊田理子 茂木茂登子
山添典子 石井真理子
岡村理栄子
藤田武子 和田啓子
墨田支部 森山君齡
世田谷支部 幸野敬子 山口芳子
藤林真理子 森戸百子 山本ふみえ

千代田支部 木村智恵子 西川恵
中野支部 新井寧子 川崎幸子
徳永友喜子 武藤 操
松野マサヨ
練馬支部 富山薫子 橋本悦子
文京支部 稲田信子 木下晴美
港支部 関敦子 小田原慶子
目黒支部 小谷政子 坂野澄子
里吉光子

学内支部 河合和美 黒川きみえ
石津澄子 星合之代
都下支部 小田桐恵美 水野光子
山本光子 齊藤純子
猪股夏子

神奈川支部 飯塚育子 岡部さく
金山和子 高橋聡子
豊田隆世 目黒立子
田中 栄 中沢深雪

静岡支部 志倉圭子 土屋ふじ
小林八重 山本正子

愛知支部 寛 香代子 小林啓子
前川勢津 松永みつへ

長野支部 白井みどり
岐阜支部 不破百合 渡辺久代

新潟支部 服部米子 深井いさほ
富山支部 熊谷愛子 吉田頼子
石川支部 大岸喜和子 北川和子

三重支部 伊藤良子
大阪一支部 古川喜英
大阪三支部 重本圭子
大阪四支部 飯田豊子

大阪六支部 林 ゆみ子
大阪七支部 大矢明子
大阪九支部 吉松昌子
大阪十支部 伊藤君子
兵庫支部 池田リエ子 島津富子
内平真理子

和歌山支部 藤並時子
広島支部 川崎光江 杉 弘子
香川支部 赤沢和美 高田登茂子
永井千代子

徳島支部 幸地吉子 福田直子
長崎支部 梶原依子
鹿児島支部 朝沼奈都子

鹿児島支部 朝沼奈都子

鹿児島支部 朝沼奈都子

鹿児島支部 朝沼奈都子

鹿児島支部 朝沼奈都子

鹿児島支部 朝沼奈都子

鹿児島支部 朝沼奈都子

計報に接し哀悼にたえず謹しんで
ご冥福をお祈りいたします
大阪一支部 内藤依子

編集後記

長い梅雨に夏はまだかと空を仰ぎ、
気がついてみれば土用も過ぎ、立秋
を迎えてから漸く蟬の声もかしまし
いという、誠に不順な天候がつづい
ております。

この時、当会名譽会員龍知恵子先
生があのかがかやかしい数々の功績を
残して、やすらかに永眠されました
ことは、誠に悲しいお報せでござい
ます。大先駆者のご遺志を継いで、
その足跡をまっすぐに一歩一歩と前
進し、日本女医の団結と向上に努力
していかなければと心を新たにしてい
ております。

さて去る五月三十日の総会において
新執行部が成立致しました。執行部
の平均年齢は一段と若返り、ファイ
ト満々の明るい第一回理事会が六月
二十六日に開催され、各部の担当が
決定、スタート致しました。新執行
部の今後の目覚ましい活躍をご期待
下さい。

昨年喜寿を迎えられた三神会長も
まだまだ若者顔負けの矍鑠たるお心
構えにて、東京都支部連合会設立を
提案され、着々準備に入っております。

す。広報部は早速第一回委員会を七
月六日に開催、会誌九十一号の企画
をわり、第二回委員会を七月二十七
日に開催、夜十時過ぎ迄、頂いた原
稿の編集に五人の額を集めて検討し、
第三回委員会を八月二十日に行い、
漸く今日九十一号発行の運びとなり
ました。右の事情で発行の大巾に遅
れましたことをお詫び致します。次
号の原稿メ切りは九月十五日ですか
ら、支部活動や体験談、旅行の思い
出、趣味、随筆等、奮って皆様から
のご投稿を歓迎します。因みに一月
発行の会誌掲載分についてはその前
月の十二月十五日、四月発行の分
については三月十五日、七月発行の分
については六月十五日を原稿のメ切
日にさせて頂きます。九十二号は灯
火したしむ秋にふさわしい会誌をと
考えております。会誌は会員の手に
よって作られるものと存じます。皆
皆様のご協力とご指導を切にお願い
致します。

最後に当誌発行にあたりご多忙中、
玉稿を賜りました多数の先生方に改
めて深甚の謝意を表します。
八木

昭和五十七年七月二十日 印刷
昭和五十七年七月二十五日 発行
編集人 八木 貞子
発行人 日本女医会
発行所 東京都渋谷区渋谷二一
八二七 青山宮野ビル
社団法人 日本女医会
TEL (493) 〇五七一
印刷所 東京都文京区本駒込
一七七一十五
株式会社 北斗社